

広島とアニメーション のつながり & サブカルイベント特集

広島アニメーションだより
Hiroshima Animation Letter vol.2
2014.1 発行



広島とアニメーションのつながりを感じさせる講演会 開催!!

広島国際アニメーションフェスティバル入選を契機にアニメーション表現の道を選び、『ニャッキ!』はじめ誰もが愛する作品を手掛けられてきた伊藤有壱さん。

『この世界の片隅に』(原作・こうの史代)長編アニメーション映画製作に取り組み、戦中の広島と呉を描こうとする片渕須直さん。

広島とアニメーションのつながりを感じさせる二つの講演会がありました。

市民公開講座 伊藤有壱講演会 「私のアニメーション制作」

【日時】11月24日(日)13:30~15:00

【会場】比治山大学 学生会館 5F 多目的ホール

比治山大学・学生会館のホールに登壇した伊藤有壱さんは、「NEO CRAFT ANIMATION」というアニメーション表現を提唱していると話し始められた。

伊藤さんと言えばクレイ(粘土)アニメーション、それにデジタルグラフィックスを取り入れ、「クラフト」つまり手作りの楽しさを新たに表現する作品が生み出されている。『ニャッキ!』『ハーバーテイル』『ドロンコロシ』、それらのコンテ・イメージボードを見せていただき、また、会場の学生さんからの質問に答える伊藤さんのお話から、作品制作への優しく強い想いを感じ、アニメーションを楽しもう!と思える講演会となった。

市民公開講座・ワークショップの詳細レポートは、広島アニメーションシティウェブサイトに掲載する予定です。

<http://hac.or.jp>

伊藤有壱さんのメッセージ



アニメーション表現に関わって、自分なりにあらゆる手法やアプローチに挑戦してきたが、1990年の夏の広島国際アニメーションフェスティバルに入選して訪れた時、混濁とした頭の中がスッパリ晴れわたり「この表現に自分の人生を賭けても良い」という確信にかわった時から、私のアニメーションクリエイターとしての故郷は広島と勝手に思っている。

日本中に、世界中に、広島に対して敬愛を抱く作家はたくさんいるのだ。11/24の市民公開講座ではその恩返しに近い気持ちで作品『ハーバーテイル』上映と前後の創作に関わるお話をさせていただいた。制作に関わる若者も、鑑賞者である大人の方々もとても興味深く聴いてくださった反応に、改めて新しい刺激をいただいってしまった。精進と恩返しはまだ続く!

ダマ映画祭 in ヒロシマ 2013 片渕須直ワークショップ 「世界の片隅、時代の片隅を描く」

【日時】11月23日(土)12:15~14:00

【会場】NTTクレドホール

「『この世界』とはどのような世界か?」と、片渕須直監督は話す。アニメーションの世界はあくまでも創作であるが、自分たちが

含まれる「この世界」を実感できるとき、単なる空想の産物だけではない力を持つ。そのために片渕監督は戦中の生活、当時の建物のような緻密な調査を続けられる。調査したこと全て作品に反映されはしない。ただ、納得できるものを作り手が持っていることは、「大人が見て子どもにも見せたいと思える」長く愛される作品を創り出す。「この世界」を実感できる映画の完成(2015年以降予定)を心から待ちたい。

片渕須直さんのメッセージ



今はその姿を見ることが出来なくなってしまった時代の呉や広島を、映画『この世界の片隅に』の画面で再現しようとねちっこくやっているところです。

昨年に引き続き、その過程をワークショップの中でご紹介したのですが、興味を持っていただけたり、おもしろがっていただけたようでありがたいです。気の長い話ですが、来年こそは完成した映像を(まだ全貌とまではいかないはずですが)お見せできるよう、さらに頑張りたいと思います。

『ハーバーテイル』(2011年/18分)
伊藤有壱監督作品/企画・製作 I.TOON)

『この世界の片隅に』
(C)こうの史代・双葉社/クロブルエ

Hiroshima あにこむ 2013

2013/11/30(sat), 12/1(sun)

子どもから大人までが楽しめるサブカルチャー学園祭！



<http://hiroani.com/>

サブカルチャー系実験イベント「広島あにこむ 2013」が、11月30日、12月1日に南区民文化センターにて開催されました。

若者文化による広島の新たな魅力発掘と発信、賑わい創出に向けた取り組みです。3回目となる今年は、市内の大学生約30人が実行委員として参加し、「子どもから大人までが楽しめるサブカルチャー学園祭」をキャッチフレーズに、学生自らイベントを企画運営しました。

アニメ、マンガ、ゲームなどのメディア芸術を気軽に幅広く楽しめたイベントのレポートが、実行委員メンバーから届きました。

ステージ、参加型プログラム(誰でも参加して楽しめる企画)、展示の3部門が盛り上がった広島あにこむ 2013 の内容とは……

【ステージ】

アニソンライブ 石原慎一氏ゲストライブ 鎌首氏ゲーム実況

今年のステージは一味違いました。

ホールで行われたアニソンライブでは高校生のバンドやデュオが例年よりも多く参加していました。これは、あにこむが認知され始めている兆候ではと、嬉しく思っています。

加えて、アニソン・特撮ソングに実績あるプロ歌手・石原慎一氏を招聘致したことも初の試みでした。プロ歌手とコラボできる企画により、あにこむがこれから先続いていく上での道標を作ることができたのでは考えています。



石原慎一氏とライブ参加者のセッション

スタジオで行われた鎌首氏のゲーム実況はあにこむの真骨頂。前年は、ボカロPを招き、最新のサブカル事情を発信した、あにこむ。その前年にも劣らない最新最先端なコンテンツとして、動画投稿サイトで人気のゲーム実況を中四国で初めて発信しました。

ゲーム実況は、本来お客様の前行うものではありません。イベントが始まるまで心配していましたが、イベントが始まるとお客様と実況者の鎌首氏が声を掛け合い

ながら一緒にゲームをクリアしていく姿、会場の雰囲気は、不思議な一体感や感動をおぼえる体験になりました。

ローカルアイドル

スタジオでは、両日、『ロコドルフェスティバル in あにこむ』を行いました。

土曜は70人以上、日曜は100人のお客様に来ていただき、出演したアイドルは11グループ。

音響やタイムキーパー、その他スタッフもほとんどが学生、何かとスムーズに進行できなかった点多々ありました。しかし、アイドルの方々やファンの皆さんが温かく、学生スタッフもめげずに両日とも一生懸命頑張ることができました。

日曜の『ロコドルフェスティバル in あにこむ』終了後は、「ひろしま MAPLE★S」「SPL∞ASH」「Re:√s」の3組によるゲストアイドルライブでした。こちらには300人以上のファンの方々が集まり、南区民文化センターの外まで待機列ができる程でした。ライブ自体もものすごい盛り上がりで、ご当地アイドルの力強さを改めて知ることができました。

【参加型プログラム】

メイドカフェ ゲーム コスプレ

メイドカフェは、あにこむのコンセプトが『学園祭』ということで、キッチンやメイドは学生が中心となり取り組みました。初々しい学生メイド達でしたが、一生懸命頑張りと、ご帰宅してくださったご主人様やお嬢様に楽しんでいただけたのではと思います。

準備で大変だったのは、メニューを決めること。どんな料理を提供すると喜んでもらえるのか、学生なりに考え、その結果、地域に注目し、安佐美なみチップスやカキ醬油チップスをお菓子盛りとして提供しました。

『学生』『地域』『サブカル』の3つを取り入れることによって、あにこむらしさのあるメイドカフェに近づけたと思います。

アナログゲームコーナーは、様々なゲームを無料で誰でも気軽に遊ぶことができるよう企画しました。最近流行の人狼から、ものづくりジムオリジナルのカードゲームや人狼パロディゲーム等、両日とも多くの参加者で賑わいました。

学生スタッフも看板を持って会場内で宣伝し、参加者と一緒にゲームをプレイしました。ものづくりジムさん、アナログゲーム販売で出展していただいた RPG・ダイス専門店プレイスペースさんの協力で、とても楽しいコーナーになりました。



人気の人狼ゲーム、遊び方を丁寧に説明

コスプレには、土曜15人、日曜40人。2日間で50人以上のコスプレイヤーさんに来ていただきました。

今回、参加型班は、県内の優秀な写真部の学生にカメラマンスタッフを依頼しました。あにこむに1人で来られた方や専属のカメラマンがほしいコスプレイヤーの方のために、写真部が撮影のお手伝いをするサービスです。カメラマンスタッフには写真部として全国大会出場を経験した学生もいました。受付にて無料で簡単に申し込めて、本格的な撮影のお手伝いをしてもらえるので、とても好評でした。

【展示】

すべてがちよっとずつ優しいあにこむ展
『球場ラヴァーズ』原画・関連展示
初音ミク展示
広島地域コンテンツ展示、学校展示

今回のあにこむでは、マンガ家・西島大介先生による「すべてがちよっとずつ優しいあにこむ展」、石田敦子先生の『球場ラヴァーズ』原画と関連展示、初音ミク展示、「安佐美なみ」「広島女学園ひろがく!」「宮島文庫」の地域に根ざしたコンテンツ展示や各学校による展示など、多くの方のご協力により様々な展示をすることができました。

初音ミク展示は、展示班による独自研究展示でした。担当メンバーの頑張りによってボリュームのある展示にできたと思います。

会場案内も兼ねたキャラクター等身大パネルは、完成品を目にすると存在感があり、看板としても良い物になりました。

この他、来場者のための落書きフリースペースは、終了時にはスペースが埋め尽くされ、やってよかったと感じました。



すべてがちよっとずつ優しいあにこむ展

今回のあにこむでは実現しなかった企画、展示についての反省点なども多々あります。それらも次回のあにこむに活かしていきたいと思っています。

次回のあにこむ、お楽しみに！



地域コンテンツ展示



大学、専門学校展示

実行委員からのメッセージ

あにこむは私たちに、大学では経験することのなかった貴重な体験を与えてくださいました。

運営は勿論、石原慎一氏、鎌首氏のゲストの招聘、西島大介先生、石田敦子先生のマンガ原稿展示の交渉も学生が担当しました。ゲスト、マンガ家との交渉は、学生の私たちには初めての経験で、至らないところもあり、ゲスト、マンガ家の方に多分にご迷惑をおかけしました。

しかし、その際に南区民文化センター、HAC、学校の先生方が私たちを支え、ご指導くださったお陰で何とか当日のイベントに漕ぎ着けました。

この体験は、近い将来社会に出て行く私たちにとって大いなる飛躍の契機となりました。

あにこむを支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

「あにこむ+（プラス）」予定！

【日程】2014年3月1日(土)・2日(日)

【会場】広島市青少年センター及びその周辺

あにこむスタッフに新しいメンバーを加え、市内中心地で開催する予定のサブカルイベント。詳細は近日中にHPへ掲載します。

<http://hiroan.com/>

広島メディア芸術の動向

カメラオブスクラ7 音と映像の遊戯室 SPHERE

大盛況で幕を閉じました



2013年12月19日(木)～22日(日)

会場：広島市東区民文化センター

スタジオ2+オープンプラザ

展示：

堀尾充・的場智美・泉尾祥子・宮崎しずか

音響ライブ：

RAKASU PROJECT(落見子) (電子音響)・

船田奇岑(テルミン他)・三浦元則(筆策)・

松前徹(音響)

今年で第7回目になるカメラオブスクラ7が今年も広島市東区民文化センターで行われました。カメラオブスクラとは、メディアアートと現代音楽のコラボレーションイベントで、今回は球体・半球体をテーマに、プロジェクション・マッピング映像あり、LED 影絵あり、サラウンドスピーカーによる音響ありの、見るも驚く異空間が演出されていました。

また土曜日の夜は、これまでの電子音響を中心としたライブ実験を進化させた、電子音楽と雅楽楽器との生共演が催され、巨大バルーンに響く音と光の不思議な世界で観客を包み込んでいました。光の芸術は子供達にも大盛況でまさに音と映像の遊戯室でした。



広島メディア芸術の動向

口ひろしま映像ショーケース

広島で映像を学ぶ学生さんたちの自主制作映像作品の上映会です。(アニメーション含む)

【日時】2014年3月8日(土)、9日(日)

両日とも13:00~17:00

※作品数により時間は変動する場合があります

【会場】広島市映像文化ライブラリー

(広島市中区基町3-1)

1階 試写試験室(定員約30名)

【料金】無料

口広島に「アニメーションカフェ」増加中!

飲みながら食べながらゆったりと、アニメーション映像を気軽に楽しみませんか? 広島アニメーションシティ(担当: Haby クラブ)ではそんな「アニメーションカフェ」を展開中。

▷シネマレストラン ビストロパバ

▷古民家ひろしま Gallery 草 sou

▷Bistro Bar まねきねこ

の3店舗で、店内スクリーン等で山村浩二さんの作品を上映していただいています。

<http://hac.or.jp/projects/animationcafe/>

広島国際アニメーションフェスティバル情報

第15回大会コンペティション作品募集について詳細が決定し、公式サイトに掲載されました。いよいよ30周年記念大会が始動します。

▼コンペティションの受付

作品受付期間:

2014年2月1日~4月1日(必着)

プロアマ問わず誰でも応募できます。

公式サイト[コンペティション>>作品募集について]の要項を確認の上、ご応募ください。

▼ボランティア募集

広島国際アニメーションフェスティバルでは、2014年8月に30周年を迎える大会をサポートしてくれるボランティアを募集しています。世界のトップクリエイターが集結する国際的な映画祭にあなたも参加しませんか!

本大会だけでなく、事前に開催するPRイベントなど、あなたの力で盛り上げてください。

【お問合せ】広島国際アニメーションフェスティバル事務局

TEL: 082-245-0245

<http://hiroanim.org/ja2013/07sponsor/7-03.html>

広島国際アニメーションフェスティバル

公式サイト <http://hiroanim.org/>

アヌシー、ザグレブ、オタワとならび、世界四大アニメーション映画祭のひとつに数えられる、広島が誇る映画祭。アジアで開催されているアニメーション映画祭では唯一のアカデミー賞公認映画祭。

1985年、被爆40周年記念として始まり、2014年の第15回大会で30周年を迎える。

【日程】2014年8月21日(木)~25日(月)

【会場】アステールプラザ(広島市中区)

【お問合せ】広島国際アニメーションフェスティバル事務局

TEL: 082-245-0245

前回の第14回大会には、2,110作品の応募がありました。今回、いっそう多くの応募が期待されます。前回は2,110作品から66作品が選考通過し、開催期間中の公開審査により、グランプリ、ヒロシマ賞、デビュー賞、木下蓮三賞、観客賞、国際審査委員特別賞、優秀賞が選ばれました。

アニメーションフェスティバル豆知識(その2)

●アカデミー賞公認映画祭って?

アカデミー賞は原則としてアメリカ国内で公開された作品が対象です。ただし、例外として、アメリカ以外で公開された作品でも、アカデミー賞の公認を受けた映画祭で最高賞を受賞した作品は自動的にアカデミー賞ノミネート候補作となります。広島国際アニメーションフェスティバルはアカデミー賞公認映画祭です。

●応募から選考のスケジュールは?

応募受付は2月1日~4月1日。5月上旬~下旬頃にかけて、広島市内で国際選考委員によりコンペティションへの選考審査が行われます。2,000を超える作品を審査し、60前後に絞る大変な選考です。この選考を通過した作品のみ8月の映画祭で上映・公開審査を受けることができます。

●観客賞って?

コンペティション実施時に入場者に投票シートが配布され、1作品に投票できます。これを集計して、最も観客に支持された作品に「観客賞」が贈られます。あなたも審査員になりましょう!

編集後記

2014年になりました。いよいよ、第15回広島国際アニメーションフェスティバルの開催年。どんな映像に出会えるか楽しみです。

今回号では、昨年秋に広島で開催された様々な映画祭やイベントの中から、アニメーション・メディア芸術、サブカルに関するイベントを紹介しました。クリエイター、新しい文化を担う若者たちの今後に期待します!

次号は3月初め頃発行予定。お楽しみに。



比治山大学短期大学部 美術科

映像・アニメーションコース

山村浩二 客員教授

授業進行中!

マンガ・キャラクターコース

客員教授 こうの史代原作
「この世界の片隅に」
アニメーション映画製作中!

●私たちは広島市と連携して若い才能を発掘育成します●

発行:広島市市民局文化振興課 編集:NPO法人広島アニメーションシティ

【紙面についてのお問合せ】NPO法人広島アニメーションシティ事務局

〒739-0321 広島市安芸区中野 6-20-1

広島国際学院大学 情報文化学部 谷口研究室内

<http://hac.or.jp/> E-mail:hac-jimu@hac.or.jp Tel:082-820-2710/Fax:082-820-2723